

令和2年度 兵庫県立明石西高等学校 学校評価

- (1) 手順  
 ①年度当初、評価項目に対する実践目標と本年度取り組むべき具体的な方策を掲げる。□  
 ②7月に教員による自己評価（中間評価）を行い、それを受けて第1回の学校評価委員会を実施。学校評価委員の意見を取り組みに反映させる。  
 ③1月に教員による自己評価（最終評価）を行い第2回学校評価委員会を行う。  
 ④学校評価委員の意見をうけ、その結果を教員で話し合い今後の改善を考へる。

教員による自己評価結果 ※評価の数値は、実践目標の達成状況を全教員により4段階で評価した平均点である。（4：よくできた 3：できた 2：あまりできなかった 1：できなかった）

領域	評価の観点	評価項目	実践目標				★評価の視点等		令和2年度・中間期の達成状況と年度末に向けての方策	令和2年度の達成状況と次年度に向けての方策
			R1 中間 評価平均	R2 中間 評価平均	R1 年間 評価平均	R2 年間 評価平均				
学校 教育 目標	1 開かれた 学校づくり	①家庭・地域への情報 発信	学校説明会や本校を紹介する広報誌の内容の充実を図る。	3.1	3.0	3.2	2.9	★【全体を通して】回数などは具体的実践の中でふれて評価する。	中間評価(8月)の総括 ①新型コロナウイルス感染拡大のため、2か月の臨時休業があり、計画した教育活動の変更があり、達成状況は特に国際交流、体験活動において目標を下回る教職員の自己評価だが、授業や生徒指導、進路選択準備、防災教育等優先すべき活動において、意識して実施できていた。 ②例年なら年度当初に理解できているはずの事柄が理解不足であるなど、結果として説明等が不十分な場合が見られる。生徒・保護者・教職員の状況をよく観察し、ひとり一人への丁寧な対応に一層心がける。 ③業務改善に向けての様々な取組が進められているが、実質的負担の軽減や意識向上へつながるよう努める。	令和2年度末の学校評価(総括) ①総平均は昨年度と同じであった。新型コロナウイルス感染拡大のため、学校行事、オープンハイスクール、外部連携等において取組制限があり、自己評価は前年を下回った。授業や生徒指導、進路選択準備、防災教育等の活動において、意識して実施できた。 ②生徒の特性、内面理解に努める重要性を年間を通して意識してきた。LGBTや特別な配慮が必要な生徒への対応は今後も引き続き重点的に取り組むべき課題と捉えている。 ③業務改善のために様々な取組を進めてきたが、今後さらに実質的負担の軽減や意識向上へつながるよう努める。 ④学校評価委員より、生徒に覇気を感じる、挨拶・制服の着こなし・自転車マナー等が向上しているなど、生徒の自己肯定感の向上につながる教育活動への良い評価をいただいた。
			ホームページを通じて、学校行事等の情報を可能な限り広報するとともに、定期的にその内容を更新する。	2.8	2.8	2.8	2.5	★学校行事や部活動の状況、その他の内容(明石とその周辺歴史・文化探訪)の更新を積極的に行う。(1月2回程度)		
	2 生徒指導	②学校評価委員制度の学校運営・改善への活用	学校評価委員との意見交換の場を設け、学校運営等の改善に役立てる。	3.0	2.7	3.0	2.5	★学級経験者、団体関係、保護者等幅広い見地からの意見聴取。評価の経年比較による改善。	第1回学校評価委員会(8月末)で受けた意見を後半の学校経営改善に生かす。	・各評議員の意見を職員会議で共有し、学校教育活動への反映を図ってきた。前年度の第2回、今年度の第1回の対面開催が書面開催となり、直接意見交換ができなかった。次年度は可能な限り対面開催としたい。
			①生徒指導方針の明確化とその評価による指導体制の推進	生徒指導方針を職員、生徒に示し、定期的なその方針の達成状況を確認しながら、生徒指導体制を推進する。	2.8	2.9	2.8	2.7		
	3 進路指導	③生徒の自主・自律の精神を育む指導の工夫	いじめに関するアンケートを学期ごとに実施するなど、生徒の抱える悩み等を把握する。	3.0	3.3	3.1	3.1	★いじめアンケート以外の把握方法は？ 例えば、面談を学期に○回等の具体的な取組が必要。	・週1回の拡大生徒指導部会でその都度状況確認をする。改善する必要があるものについては改善を行い、その都度全職員の共通理解を得ていく。 ・学期に1回のいじめアンケートにより、いじめまでいかなくとも、小さな悩みの発見で、面談等を行いながら、生徒の様子を把握していくことが重要と思われる。 ・新型コロナウイルスの影響で、部活動としても衛生管理等、新しい意識改革が必要となった。技術指導、精神面の指導に加えて、社会的意識の要請が今まで以上に必要になってくると思われる。	・夏服時女子用ソックスの再度の見直しをはじめ、校則全般を再考した。コロナによる様々な影響もあるのか、問題行動や生徒の精神状態に昨年とは違う現象が増えた。LGBTへの対応も含め、制服の在り方を検討していく。 ・スマホ指導として、登下校時の緊急使用に「取組通知との緊急連絡」を付け加えた。 ・いじめ防止対策として、今年度もいじめに関するアンケートを3回実施した。SNSの分野では、専門家の講演を今年度も定期的に1回(3年間で4回実施)、効果があった。
			部活動や生徒会活動、学校行事などの活性化を図り、生徒の主体的な活動を支援するとともに、自己有用感を高める。	3.0	3.0	2.9	3.1	★具体的に今年度新たに取組む内容や、継続して重点的に取り組んでいることなど		
			①進路指導体制の充実	生徒のさまざまな進路目標に対応する進路指導計画を策定すると共に、「進路の手引き」等を作成し、組織的・継続的に進路指導を実施する。	2.9	3.1	2.8	3.0		
	②主体的な進路選択能力の育成	生徒自らが将来の進路を選択し計画する能力を育成する。さらに、それぞれにふさわしい自己実現をめざしたキャリア教育の充実を目指す。	2.8	3.0	2.8	3.0	★キャリアノートの活用、進路別の改善等、学びの基礎診断等の活用、進路ガイダンスの改善など学年ごとの特色ある取組、実施状況を踏まえた取組			
	①実践的指導力の向上	公開授業や研究授業を充実させ、指導法や授業形態の工夫を図る。	2.9	2.7	2.9	2.9	★公開授業の工夫、研究授業への取組	・例年より遅い11月に実施。体育大会時期とずらしたことで、コロナ感染予防のため、学校行事がなかったこともあり、保護者参観が多かった。感想には、普段から学校教育に対する疑問なども率直に書かれていたため、参考とした。次年度も実施する。		
	②計画性を持った研修の実施	各部・各委員会の協働により、学校の諸課題に関する校内研修を計画的に立案する。	2.5	2.6	2.8	2.8	★具体的な取組、昨年度からの改善、年間研修計画の提示		・教育相談・保健安全計画について、今後もさらに改善を行っていく。 ・職員会議等において、タイムリーな課題について短時間ながら研修会を数回行うことができた。また、「教員資質向上指標」や「教職員研修計画」を踏まえ、より計画的に研修を行えるよう関係職員と打ち合わせ実施していく。	
5 危機管理 体制の整備	①実践的な研修・訓練の実施	危機管理マニュアルの点検及び改善を行う。	2.7	2.5	2.7	2.7	★(組織間の取組) 日常の点検、緊急時の連絡	感染症対策について、各部各学年と連携を行い、安全への配慮を行っている。 ・本年度は特に保健部が主体となり、清掃、消毒を含め新型コロナウイルス感染防止の環境整備に努めた。次年度も環境整備を継続する。		
6 研究活動 指定事業 の推進	①新学習指導要領実施に向けた授業改善等の取組	指導目標を明確にし、探究活動を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。	2.7	2.7	2.9	3.0	★具体的な取組が必要	・本年度は特に保健部が主体となり、清掃、消毒を含め新型コロナウイルス感染防止の環境整備に努めた。次年度も環境整備を継続する。 生徒による授業アンケートを実施(11月～12月)し、そこから来年度各教科の「明石西グランドデザイン(カリキュラム・マネジメント)」における目標の見直しをし、来年度へつなげることができた。		
7 業務改善 の推進	①業務改善を全職員で実施	職員のワークライフバランスを改善すると共に、業務量や業務分担の見直し、スクラップ&ビルド、報告・連絡・相談等の情報共有、指示の明確化等の業務改善により、生徒と向き合う時間を確保する。	2.2	2.6	2.5	2.5	★具体的な取組とその改善効果、特に重視すべき課題は、業務改善の意識改革、業務の見直し、勤務時間の把握	・従事時間申告書の提出率100%。今後も100%を持続する。 ・「GPH50」に記載されている事例のうち多くの学校で採用されている事例(My定時退勤日、校務分掌の見直し、校務・業務の効率化・情報化、等に関するもの)を参考に、一層取組をすすめ、時間外勤務の縮減に努める。		
1 自ら学び 考える力の育成	①体験的・問題解決的な学習の展開	ふれあい育児体験やミニ・ティーチャー等の体験的な学習や、問題解決的な学習を推進する。	2.9	2.6	3.1	2.9	★「問題解決的な学習」は具体的に何をやるか？ 例示できるか？	個人レベルでの取り組みはあると思われるが、教科会や学校全体のレベルでの共有はなされていない。今後の課題である。 ・コロナでこども園体験は実施できなかったが、赤ちゃん先生はオンラインを活用して実施することができた。次年度も内容や実施方法などを工夫し、改善を図ってきたい。(教育類型) ・国際人間科の理系進学希望者については、慎重に生徒の現状と将来性などを鑑み審議した。結論として、文系を重視し国際社会に貢献できる幅広い力を身につけさせる方向に位置付けることとなった。 ・令和4年度入学生からの新カリキュラムについては、教科の単位数や履修内容の変更にもない、バランスのとれた編成に努めた。一部、来年度への継続審議とされている。 ・新聞活用については、図書室前にNIEコーナーを設置し、1年生「総合的な探究の時間」を中心に、各教科の授業での活用を行った。思考力・判断力・表現力の向上のため、来年度は更に担当者を広げて活動を進める。(NIE担当)		
	②生涯教育の視点に立った実践能力の育成	学校設定科目を含め多様な選択科目を設定し、特色ある教育課程を編成するとともに、精査と見直しを行う。 NIE実践校として、 <u>新聞を教材として生かし、思考力・判断力・表現力等を向上させる授業等を充実させる。</u>	2.8	2.8	2.8	2.2	★生徒の進路実現と科目開講の諸条件等とのバランスはとれているか。			

II 教育課程	2 基礎・基本の定着	①生徒の学力の把握と評価規準の設定	各教科で評価規準を設定し、それに基づいた評価を行う。	3.0	3.0	3.1	3.2	・多面的な評価規準、テスト等の工夫 小テストやパフォーマンス評価等を行っているか。 学力把握と評価について、その方法や規準は明確か。	・評価については成績会議までの教科会で検討をされ、成績会議において明確にされている。 ・43回生までは普通科の選択科のシラバスのみの配布にしたが、44回生では、全生徒に配布し、学年集会等での説明も実施。	・評価規準は、各教科会を通じて議論され、適切に行われている。 ・今年度も3年次における選択科目のシラバスを生徒に配布したが、活用に関してはまだ不十分であるので、さらに活用を図りたい。
		②学ぶ喜びや達成感が味わえる指導方法の工夫	より計画的な指導を推進するために、シラバスや年間指導計画の整備を行う。	2.8	3.0	2.8	3.1	・類型選択や科目選択の際に、シラバスが有効に活用されているか。		
	3 総合的な学習(探究)の時間	①教職員の協働体制の確立	推進委員会を定期的に開催し、3年間を見据えた計画を立てるとともに、生徒のニーズに合った学習テーマを設定し、全教員が取り組む。	2.6	2.8	2.6	2.9	・生徒の興味・関心・適性の把握をする工夫を具体的に示す。(達成状況を示す段階では)	・推進委員会は45回生の職員も参加してもらい、1年次での2単位の1単位分(担任以外が担当)の活動内容を理解してもらった。学期に最低1回は会議を持ち、各学年の進捗状況の報告、他学年へのアドバイス、情報交換を行い、本校における「総合」の活動内容の確立を図る。 ・推進委員会の「ニュース」を発行し、全職員に「総合的な学習・探究の時間」の活動内容を知らせる。6月に第1号発行した。	・44回生がグループでの課題研究を行い、発表に取り組んだ。来年度以降、今年度の取り組みを参考にさらに深化させたい。 ・専門部設置等の意見も出ており、令和4年度に向け検討する。 ・総合的な探究の時間の委員会ニュースは学期に1号は発行する。
		②創意工夫を生かした実践の展開	表現活動の場を設定するとともに、各教科の学習活動や特別活動との連携を図る。	2.5	2.8	2.8	2.8	・具体的に行うこととして、図書館活用や、〇〇発表など。		
4 個に応じた学習指導の徹底	①評価方法の創意工夫	学習指導の過程における評価を行い、評価活動を授業の改善に生かすことにより、指導と評価の一体化を図る。	2.7	2.9	2.9	3.1	・生徒による授業評価等を取り入れ授業改善に生かしているか。パフォーマンス評価(定期考査内に観点別評価等)、小テストの工夫	・授業評価は休校明けの混乱の中で実施できていない。後期に実施予定。 ・少人数、主熟度別指導は国・数・英を中心に実施されている。 また、他教科・科目においても授業内において場面によってはグループであったり、個別であったりと学習に応じて実施されている。	・「指導と評価の一体化」については生徒へのアンケート実施を今年度は一度行ったが、来年度以降、前期・後期の年間2回を行い「明石西グランドデザイン(カリキュラムマネジメント)」の目標と照合したい。実施方法、内容について課題を整理して、次年度以降定着させたい。	
	②指導形態の工夫	習熟度別授業や少人数指導の深化を図るとともに、チームティーチングや、ICTを活用し、思考力・判断力・表現力を高める等授業改善を図り、指導の工夫を行う。	2.8	2.8	2.9	2.9	・一斉指導と少人数、習熟度別指導とが適切なバランスのもとに計画・実施されているか。			
5 学校の個性化・多様化	①学科の特色をそれぞれ踏まえた教育の推進	(普通科) 基礎的・基本的事項の完全定着に努め、学習に対する取組を組織的・計画的に支援する。		2.8	2.8	2.9	2.9	・兵教大の研究協力(コミ英)以外の取組等	授業改善が一番のポイントととらえ、教務部と連携しながら、授業評価等の取り組みを進める。	・公開授業週間等を通じて一定程度の授業改善を行ってきた。今後もより積極的に授業を公開し、職員相互に研究を深め効果的な指導方法の工夫・改善を図る。授業評価等の取組を継続する。
		(普通科・教育類型) 体験学習や課題研究等により、教育や社会への洞察を深める。		2.9	2.5	3.1	2.9	・赤ちゃん先生、ミニ・ティーチャー、ディベート、ビブリオバトル等の(代替)取組	1学期はビブリオバトル(2年)、パワーポイントを利用したプレゼンテーション(3年)を実施。コロナの影響で実施が難しい小学校でのミニティーチャー体験の代替プランとして、オンライン用授業動画の作成を検討中。	・コロナ禍でこれも同体験は実施できず。赤ちゃん先生はオンラインで実施。小学校での体験学習は校内での授業実施体験に変更。プレゼン・ディベート等は例年近い形で実施し、表現力の向上が図ることができた。今後もこの取り組みを継続して行ってきたい。
		(国際人間科) 特色ある専門科目や多彩な行事を通じて、グローバルな視点で考え行動できる人材の育成を目指す。		3.0	2.9	3.2	3.0	・特色ある授業や行事等に生徒が主体的に取り組むとともに、成果が現れているか。	イギリス研修が福島研修に変更されたが、震災学習を「情報コミュニケーション」の授業で行い十分な知識を得て現地で学習に活かす予定。	・特色のある英語の授業、地球市民特別講義、その他の行事や海外の生徒との交流を通じて、異文化理解・世界の抱える問題などについて考察を深める活動を行ってきた。今年度は、コロナ禍のためJICA訪問、県立大学との交流を一部オンラインで実施したが、福島研修が中止となった。今後は、海外の活動を国内にしたり、講義や対面の活動をオンラインで利用するなどして、特色ある活動を継続してきたい。
6 カリキュラム・マネジメント	①カリキュラム・マネジメント研究の推進	本校の強みを更に生かした教育活動を展開するため、教科横断的な観点からの教育課程の編成を目指す。	2.6	2.6	2.5	2.7	・「明石西高グランドデザイン」に基づいた教育課程の編成。また、その成果の検証方法等について共通理解ができているか。	検証方法は今年度後期に提案できるよう準備段階。生徒向けアンケートは、Google Classroomの活用を考えている。	・各教科内で身につけさせたい資質・能力をどのような学習活動を通じて、達成できるか、昨年度より取り組んできた成果を明らかにし、まだ達成できていない目標や新たにとりむべき課題を整理することが課題である。 ・教科学習以外の地域や生徒会、学校行事についても考える。	
III 課題教育	1 防災・安全教育、健康教育	①教員の防災・安全教育にかける指導力・実践力の向上	学校安全計画の見直しを行うとともに、防災訓練や救急救命講習会が実のあるものとなるよう、教職員の意識を高め、生徒の安全意識を高める。	2.8	2.9	2.9	3.0	・(教員と生徒の取組) 防災訓練、自転車点検、交通安全、未然防止、ノロ・コロナ対策、安全教室(自転車教室)等	生徒の健康観察により健康管理を行う。机上、ドアノブ等の消毒を行う。各教室に手指消毒液を設置し感染防止を行う。学校医とも相談し目的は達成できている。	・防災訓練では非常扉・非常階段を使った避難を行い、避難時の注意点を確認した。兵庫県のシェイクアウト訓練と連動したシェイクアウト訓練も行った。 ・阪神・淡路大震災を経験した新聞記者、舞子高校環境防災科元科長によるコロナ禍での防災に関する講演を実施した。
		②生涯にわたる健康の基礎を培う指導の工夫	「保健便り」を発行するなど保健室の機能を生かし、適切な健康管理・保健指導を行う。また、インフルエンザ・コロナウイルス等の感染症について、感染防止に必要な知識の理解や態度の育成を図る。	3.2	3.1	3.2	3.3	・季節の変わり目の節目に、効果的な「保健便り」が発行されているか。	感染症予防のため適時にわかりやすく保健だよりを発行できた。これからは熱中症対策を含めて生徒に周知したい。	・適時に保健だよりを発行し生徒の健康に対する意識を高める事が出来た。特にインフルエンザ予防には効果が出た。
	2 人権教育	①人権教育推進体制への取組	3年間を見通した人権HR・人権福祉講演会等の充実を図り、計画的に実施する。	2.8	2.7	2.6	2.9	・学期ごとに人権教育・道徳教育推進委員会を中心に年間の実施内容を検証する。	臨時休校のため、ホームルームの時間が減り、1学期は人権HRが行えていないが、2学期以降は年間指導計画に基づき、人権HR、人権講演会を実施予定である。	・各学年ごとに、1年ごとの目標を立て人権HRを行った。 ・人権福祉講演会では清水展人氏に「女らしく男らしくより、自分らしく生きる～ジェンダーが平等に尊重される社会へ～」の演題でご講演いただいた。
	3 情報教育	①情報モラルの育成	「サイバー講演会」や教科「情報」の授業等を通じて、スマートフォンやネットに潜む危険性を生徒に理解させる。	3.0	3.0	3.3	3.3	・3年間で計4回実施する。	・今まで同様、年3回、入学から卒業までに4回の講演会により、現状把握と自意識の向上に向けていく。	・継続して行っている講演会については、毎回新しい情報も加えられ、有意義である。来年度も計画を立て実施する。
	4 国際理解教育	①他国の歴史や文化の理解	海外修学旅行や研修旅行の事前事後学習で、訪問国の歴史・文化・生活習慣等について理解を深めさせる。	2.9	2.6	3.3	2.8	・他国と自国の文化等の比較をふまえ、事前学習は十分行っているか。	コロナウイルス感染症拡大のため、海外研修が実施できない状況である。	コロナウイルス感染症拡大のため、海外研修が実施できなかった。
5 特別支援教育	②交流事業の推進	姉妹校との相互訪問等を通じて、生徒同士の交流を深めると共に、インターネット回線を活用したテレビ会議を取り入れ、ICTを活用した交流を深め、異文化理解の深化を図る。		3.0	2.6	3.3	2.6	・マレーシア・オーストラリアの姉妹校との具体的な交流、テレビ会議の推進状況	今年度は、各国の入国制限のため、マレーシア・オーストラリア語学研修は中止の判断となった。マレーシアはまだロックダウンが続いている。現在、生徒プロフィール郵送をし、生徒同士の交流準備をしている。オーストラリアは郵便物性差禁止措置によりネットでの交流予定で、現在準備中である。生徒が学校に参観できていない状況がマレーシア・オーストラリアともに続いており、学校が再開されてからの交流となる。	・現在もイギリス・マレーシア・オーストラリア・日本の入国制限が続いており、お互いの国を訪問するという形での交流ができていないが、入国制限が解除されたら、相互交流を行うという共通理解がされている。海外研修旅行が実施できない場合の代替措置として国内で英語のネイティブスピーカーと交流する研修旅行を次年度企画予定である。
		①校内支援体制の充実	職員の研修を深め、特別支援教育コーディネーターを中心に全教職員で、支援が必要な生徒へのきめ細かく適切な教育的支援を行う。	2.4	2.9	2.7	3.1	・特別支援教育に係る研修会を行う。対象生徒の情報共有と具体的な支援は行っているか。	特別支援教育に関する拡大学年会議を全職員出席とし全体での生徒情報の共有を図った。特別支援教育推進委員会を年4回開催し定期的な情報交換をおこなうことになった。校内ネットワークに特別支援教育推進委員会のフォルダを作成した。個別的教育支援計画に準ずる支援を要する生徒の情報を集約するファイルを作成した。	・配慮が必要な生徒について全体で情報を共有することができた。 ・委員会で配慮が必要な生徒の支援の方針を検討することができた。 ・適時にカウンセラーの指導・助言を得ることができた。 ・個別的教育支援計画に準ずる支援を要する生徒が、年間を通じて問題なく授業に参加することができた。 ・引き続きすべての生徒が安心して学校生活を送ることができるように特別支援教育の体制を整備してきたい。
総平均⇒				2.8	2.8	2.9	2.9			

#### ○令和2年度(年度末評価)において学校評議員よりいただいた主な意見(R3.3月)

- ・環境整備:環境を整えることは大切。トイレがきれいなのは良いこと。気持ちよくすごせるよう掃除を継続すること。
- ・安全・マナー指導:自転車マナーが気になる。並走や一旦停止を守る。イヤフォンをして自転車に乗っている生徒には気を遣う。自転車に乗って、携帯を触っている生徒も周囲に注意者がいかないうちに危険。
- ・防災教育:実践的にするのが良い。定期的に実施して欲しい。
- ・感染症対策:変異株が気になる。学校も対応をお願いしたい。学習指導の対応についてはオンラインが求められる。ハード面の整備を今後さらに進めていく必要がある。
- ・SNS:中学生で遠方の見知らぬ人となつて会いに行くことが問題となっている。そのようなSNSの扱いを経験した生徒がこれから高校にも入ってくる可能性がある。それを踏まえた指導が必要。

- ・コロナ禍で実施できなかった行事や取組も多くなったが、学校が尽力してきたことが評価からわかる。
- ・西高が年々良くなっていることを実感する。制服の着こなしがしっかりしている。自転車マナーがよい。挨拶を返す生徒が増えた。生徒に敬意を感じる。
- ・どんだん良いところを外部発信してもらいたい。
- ・「開かれた学校づくり」に貢献されていることがうかがえる。
- ・公開授業や授業形態の工夫は教員の意識を高め、進路指導等多面に生かされている。
- ・国際人間科の理系進学に苦慮されており、ある程度への対応が課題と思われませんが、文系の荷っている文化的・社会的な重要性の視点をいかに高揚させるかが大切。
- ・「校長便り」などにより、時事問題にも関心を持っている学校生活は西高らしい特色である人間教育実践の場である。